

ゴンちゃん モンちゃん

Vol. 5 平成12年10月27日発行



里山エコスクールin中山の森 ～里山林で学ぶ自然と環境と人の知恵～



この事業は(社)国土緑化推進機構の「緑と水の森林基金」の助成を受けて行っています。

第5回里山エコスクールの概要

森の手入れ

2月20日の第一回を皮切りに始まった里山スクールも5回目の今回で総仕上げ。里山に見る人と自然の有り様を環境問題と日常生活をリンクさせる体験学習として取り組んできました。里山の成り立ちから、植物や動物の様子、そしてそこに人間の暮らしがどのように関わっているかを見て、今回はその里山の利用について考え、実際に森の手入れをして遊んでみました。落ち葉の層に埋もれた小さな芽や、伐って萌芽(切り株から数本の芽生えがある)させる雑木林のことを学び、各班、利用目的に合わせて除伐や落ち葉かきに取り組みました。また、伐った柴材を使ってベンチやブランコ、樹上の足場などを作り、遊び場や、楽しみの場所を作って独創的な「森のガーデン」をたんのうしました。



森のガーデンづくり

大きなシンボルとなる木の回り(直径4～5m)を選んでその場所を「もりのガーデン」としてどんな利用をしてみたいかを話し合いました。森の中で自分たちで手を入れて何かに使ったりするという発想は、普段あまりするものではありませんが、森の中で様々なプログラムを体験してきた子どもたちにとっては、それほど突飛なことではないように思われました。大きな木を丸ごと使って遊具を作るとか、ゆっくりと休める場所にしたいとか、自分のすみかのようにしてみたい。また、かわいい花が咲く場所にしたいなど、各班様々なプランが湧いてきました。



ロープで木が遊具に

各班が話し合ってそれぞれの森のガーデンを作ることになりました。ワシ班は“ワシのガーデン”、しまりす班は“もりのハウス”、スズメバチ班は“スズメバチの家”、そしてもみじ班は“天使の部屋”と、場所に合わせて皆で思い思いにロープと除伐した柴材を使って個性的な空間が出来上がっていきました。木に登るはしごや、ベンチやブランコ、ハンモックなどをてこ結びや、直交させた丸太を固める角縛りなどの結び方を覚えて作りました。生き生きと作業に励む姿が印象的でした。